

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 6月 18日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3471502686		
法人名	株式会社 リブネット		
事業所名	グループホーム かざぐるま		
所在地 (電話番号)	広島県福山市御幸町上岩成609番地の1 (電話) 084-961-1200		
評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会		
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29		
訪問調査日	平成21年6月10日	評価確定日	平成21年6月26日

## 【情報提供票より】(平成21年5月26日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 4月 1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	27 人	常勤	23人, 非常勤 4人, 常勤換算 5,25人

### (2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄筋コンクリート造り	
	3 階建ての	2 階 ~ 3 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	有(205,000円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,183.4円		

### (4) 利用者の概要(5月1日現在)

利用者人数	27 名	男性	7 名	女性	20 名
要介護1	7 名	要介護2	5 名		
要介護3	8 名	要介護4	5 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	70 歳	最高	102 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	小島病院・さくらの丘クリニック・JA府中農協病院
---------	--------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

笑顔を大切にしながら、安らげる生活を目指し、利用者の自信につながるような声かけをしながら、役割も生活の一部として行えるように、職員は、利用者と一緒に笑顔で過ごしている様子が伺える。日々の生活の中でも、四季折々の花見やドライブ、外出などの楽しみことも多い。自分たちのケアに満足することなく、言葉に出不せない、一人ひとりの思いや願いをより深く理解し、その人らしい生活を支援するために、独自にアセスメント様式を作成したり、各ユニットごとに年間および月間目標をたて、常にサービスの質の向上に向けて話し合い、検討している。地域に溶け込んだ生活を目指し、地域に積極的に出かけ、理解と協力が得られるように働きかけ努力しているホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>積極的に地域と関わりを持つという、前回の課題については、地域との窓口を管理者だけでなく、副管理者も担当とし、事業所全体での取り組みとすることで、地域との交流の改善を図っている。運営推進会議についても、夏頃に、家族代表、市の担当者、地域包括支援センターのメンバーで開く予定で、引き続き、地域の人たちへの働きかけを続け、改善に向け努力している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は、管理者、副管理者、各ユニットのリーダー、介護支援専門員で作成した内容を職員へ伝え、サービス向上に活かしている。また、各ユニットごと、ケアの振り返りとして、年間および月間目標をたて、改善に向け取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>地域性の事もあり、グループホームに対する理解や同意が得られず、地域の人たちの運営推進会議への参加が難しく、2年前から会議を開いていなかったが、夏頃に、家族代表、市の担当者、地域包括支援センターのメンバーで開く予定である。4月の家族会は、運営会議の目的のモニター役として、事業所の内容(目標・反省・事故報告・活動報告)などを明示し、参加された家族からの助言などを得ながら運営に反映させている。市の担当者とは、地域性のことも含めてホームの実情や課題について、よく相談に行き、情報の共有を図っている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>率直な意見を聞くために年1回、アンケートを実施したり、家族の訪問時や行事参加時に問いかけるなどして、話しやすい雰囲気をつくり、家族の意見が反映できるように努めている。4月の家族会のときには、事業所の内容(目標・反省・事故報告・活動報告)などを明示し、参加された家族からの助言などを得ながら運営に反映させている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域とのつながりを大切に考え、積極的に、地域の店での買い物、美容院、受診など、地域の人々との関係を深め、日常的なつきあいができるように努めている。町内会にも加入し、溝掃除への参加や近所からの野菜の差し入れもある。事業所の夏祭りには、地元の人々や大学のボランティアも参加して交流を図っている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭的な雰囲気の中で、仲間と一緒に思いやりとやさしさで、笑顔を大切にしたい、やすらげる生活を目指す」事業所独自の理念をつくりあげている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員一人ひとりが理念の実現に向け、各ユニットごとに年間および月間目標をたて、目標の達成に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域とのつながりを大切に考え、積極的に、地域の店での買い物、美容院、受診など、地域の人々との関係を深め、日常的なつきあいができるように努めている。町内会にも加入し、溝掃除への参加や近所からの野菜の差し入れもある。事業所の夏祭りには、地元の人々や大学のボランティアも参加して交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	地域との関わりについては、窓口を管理者だけでなく、副管理者も担当とし、事業所全体での取り組みとすることで、地域との交流の改善を図っている。今回の自己評価は、管理者、副管理者、各ユニットのリーダー、介護支援専門員で作成した内容を職員へ伝え、サービス向上に活かしている。また、各ユニットごと、ケアの振り返りとして、年間および月間目標をたて、改善に向け取り組んでいる。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域性の事もあり、何度も声かけしても、グループホームに対する理解や同意が得られず、地域の人たちの運営推進会議への参加が難しく、2年前から会議を開いていなかったが、市の担当者や相談して、夏頃に、家族代表、行政、地域包括支援センターのメンバーで開く予定である。4月の家族会は、運営会議の目的のモニター役として、事業所の内容(目標・反省・事故報告・活動報告)などを明示し、参加された家族からの助言などを得ている。		地域住民、地域包括支援センター、行政の職員等、外部の人々に運営推進会議へ積極的に参加してもらえるように働きかけ、多くの率直な意見を受け、サービス向上に具体的に活かす機会としていくことが望まれます。今後も一歩一歩改善に向けて、管理者、職員の協働の取り組みに期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは、地域性のことも含めてホームの実情や課題について、よく相談に行き、情報の共有を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、行事や職員の紹介を載せた、かざぐるま日より利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭の収支状況の報告と近況を添えた手紙を担当者が送っている。利用料の支払いや訪問時など、家族ときめ細かくやりとりをして、常に連絡を取り合っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	率直な意見を聞くために、年1回、アンケートを実施したり、家族の訪問時や行事参加時に問いかけるなど、話しやすい雰囲気をつくっている。運営会議の目的のモニター役として4月の家族会のときには、事業所の内容(目標・反省・事故報告・活動報告)などを明示し、参加された家族からの助言などを得ながら運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は、ほとんどなく、利用者に影響を与えないように、顔なじみの職員によるケアを心がけている。新しい職員が入る場合も利用者きちんと紹介し、馴染みの関係を保つことを重視している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は資格取得に向けて意欲的に取り組み、研修へも積極的に参加し、職員の更なる質の向上に努めている。家族会時に、資格取得者や研修活動の内容も報告している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との合同勉強会は計画段階で、実現にまで至っていない。管理者同士の交流や情報交換を通じて、質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の見学や、入院中のときには、何度か面会し顔なじみの関係づくりに努めたり、併設のデイサービスから入居に至ったり、本人が安心して、納得して入居できるように、本人の意思を尊重して対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事づくり、食器やお盆拭き、ゴミ集め、洗濯物たたみなど、得意分野で力を発揮しもらえるように、利用者ができることは、自分でできるように環境を整え、見守りや声かけをし、共に支えあえる関係づくりを築いている。職員の動きにも慌しさは感じられず、ゆったりとした時間の中で利用者と共に時間を送っている様子が伺え		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向など、全体像を知る取り組みを更に充実させていくために、センター方式から、独自にアセスメント様式を作成し把握に努めている。本人の希望、意向は、日々の寄り添いや会話の中から汲み取り、困難な場合は、面会時など家族からも情報を得ながら、本人の視点に立ち検討して		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回の管理者と介護支援専門員参加のプラン会議と月2回の各ユニットのミーティングで話し合った、職員全員の気づきや意見を反映し、一人ひとりの希望にそった暮らしができるように、本人の意向や家族の要望も取り入れた個別の介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的には、3ヶ月ごとに介護計画の見直しを行っている。本人や家族の意向や要望の変化に応じて、職員の気づきや情報を確認し、臨機応変に計画を見直し作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて、釣堀、映画鑑賞、洋服やドーナツの買い物、お墓参り、自宅の仏壇のお参り、受診同行など、柔軟な対応をしている。		
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族が希望する協力医療機関以外のかかりつけ医へも、状況に応じて受診同行し連携を図り、適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた方針は、明文化していないが、看取りの経験もあり、本人や家族の意向を踏まえ、事業所ができることとできないことの範囲を説明をし、家族等ならびに医師と話し合い、対応している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の関わりの中で、一人ひとりの誇りやプライバシーを損なわないような声かけや対応が心がけられている。個人情報に関する書類については、カギ付き戸棚に保管している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースや体調に配慮しながら、その時の本人のしたいと思っていることを大切に、自宅へ帰ったり、朝、ゆっくり休んだり、買い物など、柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	近くの店で買い物や野菜の皮むき、おにぎりを作ったり、お盆拭きなど、個々の力を活かしながら利用者と一緒に、食事の準備をしている。職員は利用者と共に食卓を囲み、支援しながら食事をしている。日曜日は、1日、利用者と相談しながら献立をたてたり、時には、店屋物を頼んだり、外食を楽しんだりしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には、週3回、15時から17の時間帯で支援しているが、できるだけ時間や回数は希望に応じて、柔軟に対応している。以前は、入浴を毎日されていた利用者もみえた。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの力を発揮できる場面として、植木の水遣りやモップ賭け、洗濯物たたみなど、役割を作り出す働きかけをしている。誕生日には、釣堀や映画鑑賞など、本人の希望を聞き一人ひとりにあった楽しみを支援している。ときには外食時に、お酒を楽しむこともある。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の買い物に出かけたり、月1回の行事では、利用者の声を聞きながら、お弁当を持ってお花見やピクニック、外食、公園、動物園など、できるだけ戸外に出かけられるよう支援している。季節を肌で感じられるように、車椅子の人も、日常的に戸外へ出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関に鍵をかけずに、鈴をつけ、出て行く気配を感じたら、さり気なく着いて行き、自由な暮らしを支えている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回のうち1回は、消防署の協力を得て、避難訓練を実施している。消防署から、避難方法の指導を受け、3階のユニットは、同じ階の隣のユニットへ移動など、ホームの構造を考えた避難経路の確認や利用者と一緒に消火器の使用方法などの訓練を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	昼は、併設のデイサービスの厨房で作った、栄養バランスが考えられたおかずが届く。日曜日を除く、朝と夕の食事は栄養管理をしている栄養士が考えた1日の献立を参考にして、作ったり、希望を聞いて献立をたてたりしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者は日中、共用空間で過ごすことが多く、飾り付けや食事を作るときの匂いなど、自然に生活感や季節感を取り入れた空間となっている。我が家の延長のような、安心感のある落ち着いた雰囲気を作り出している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や小物を持ち込み、入居者によっては仏壇を置かれたり、テレビを楽しんだり、今まで住んでいた場所と同じように、安心して過ごせる環境を作っている。		

# 介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護  
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホームかざぐるま

評価年月日 2009年 5 月 26 日

記入年月日 2009年 5 月 26 日

この基準に基づき、別紙の実施方法  
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 リーダー 氏名 三宅 芳

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室



番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;"> <b>理念の基づく運営</b> </div>				
1 理念の共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	創立時に作った独自の理念がある。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	スタッフにも周知できるよう、各ユニットの見やすい場所に掲示している。 その理念を基に、年間及び月間の目標を立てている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	年間をとおしての各行事や、日常の面会時の家族との会話の中で行うよう努力している。		地域への周知努力を今後も行って行きたい
2 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。	町内の方々への挨拶はできているが、日常のお付き合いができるまでには至っていない。		近隣の人が気軽に立ち寄れるような環境づくりが今後の課題である。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の一員となれるよう、様々なアクションを起こしているが、地域性も起因しているのか、今一歩といったところである。 地域の行事には参加している		夏までには中断していた運営推進会議を再開させる予定である。地域の方数人でも参加して頂き、事業所の事や認知症について説明していきたいと考えている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	出来ていない		近隣の住人を対象とした「認知症講習会」等の構想がある。
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価を各ユニットの全スタッフにも取り組んでもらい、理解を深めるようにしている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	出来ていない		家族や地域の方々に、運営推進会議の意義を理解して頂きたい。 夏までには再開予定である。
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	頻繁に相談をしている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	入居時に必要と思われる方には勧めている。 現在利用されている方もいる。		職員にも知識を周知させる機会を持ちたい
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	管理者の研修会やセミナーへの参加 会議やミーティングの中で定期的に議題に挙げ 注意や喚起に努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

#### 4 理念を実践するための体制

12	<p>契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>家族の希望をしっかりと聴き、事業所として出来ること出来ない事を説明し、双方合意の上契約をしている。その後も質問や問い合わせがあれば敏速に対応している。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。</p>	<p>入居者が話しやすい環境や雰囲気創りに心がけ何かあったら事業所内で話し合い、運営に反映させている。</p>		
14	<p>家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>毎月、手紙で入居者の様子を家族に知らせている。 個々の金銭出納簿をつくり、領収書等を送付している。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>家族会で、自由に意見や思いを言える機会をつくっている。</p>		他にも同様の機会を設けたい。
16	<p>運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>月2回のミーティングで、各自に意見を述べる機会をつくっている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>緊急時にはいつでも勤務変更して対応している。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	移動は極力行っていない。 やむをえない場合には他のスタッフがフォローできるような体制づくりをしている。		
<b>5 人材の育成と支援</b>				
19	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の研修やセミナーへの参加や、資格取得のための勤務日調整も行っている		
20	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	管理者同士の交流や情報交換を行っている。 他事業所との合同勉強会なども予定している。		
21	<b>職員のストレス軽減に向けた取り組み</b> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	行事の後など、非定期的ではあるが懇親会等を開催している。		
22	<b>向上心を持って働き続けるための取り組み</b> 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	資格手当を報酬に含めている		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	<b>初期に築く本人との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	事前訪問時に世間話などで、本人がリラックスして話せるように努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居前訪問で、利用に至るまでの経過や思いを聞くよう努力している。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	事業所の機能では、要望に応えきれない状況であれば、他のサービスの紹介をしている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気次第に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	事前訪問から入居までの期間、時間があればスタッフが訪問するなどの工夫をしている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の特技を生活に活かし、スタッフもそれを教えてもらい一緒に行くことで、入居者さんが主体となれるような取り組みをしている。		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族とスタッフとの話の中で、愚痴を聞いたり一緒に喜んだりして、家族にできる事には参加してもらっている。面会に来られない家族に対しての交流が難しい。		面会にあまり来られない家族に対しての取り組みを考える必要がある。
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	家庭ではできていなかった事が、ここでは出来るようになってきている事を伝え、喜んで頂くように努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	一時帰宅など、今までの生活が途切れない取り組みを行っている。		意思表示が難しい方への取り組みが今度の課題である。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	仲の良い方同士の席を近づけたり、孤立しやすい方も職員が仲裁して、交流するよう心がけている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入院退去された方のお見舞いや、死亡退去の方への葬儀には極力出席している。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	できる限り一人ひとりの意向を聞き、希望に添うように支援している。困難な場合は話し合いによって本人が納得できるよう努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時の基本情報や、入所後のアセスメントまたは普段の利用者との会話などから情報を得てスタッフ間で共有している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	管理日誌・申し送りノート・ライフチャートなどの書類に出来るだけ詳しく記入し、全スタッフが把握できるよう努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

## 2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ケアプラン作成時には全スタッフがかかわり、カンファレンスなどを通じて意見を募っている。		本人だけではなく、家族の意向の充分に聞き取り介護計画に反映させて行きたいと考えている。
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	状態の変化によっては期間にとらわれることなく、ケアプランを作成しなおすようにしている。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	行ったサービスについての記録は些細な事でも記録しているが、利用者本人の様子（表情・言動・気づき等）の記録方法がスタッフによってまちまちである。		改めて記録の意味についてスタッフ感で話し合い共通の認識を持っていきたい。

## 3 多機能性を活かした柔軟な支援

39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	施設から自宅に退去され、事業所内のデイサービスを利用されている方も現在おられます。		
----	---	---	--	--

## 4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	チャレンジウイークの受け入れや消防訓練等、各機関の特徴をいたしたかわりをしている。		
----	--	---	--	--

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	事業所の機能では、要望に応えきれない状況であれば、他のサービスの紹介をしている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	困難な事例などは事業所のみで抱え込まず、地域包括支援センターに相談して取り組んでいる。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	協力病院の医師との関係を密にし、こまめな情報交換をすることにより、より適切な医療が受けられるよう取り組んでいる。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症専門医を主治医に持っている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	かかりつけ病院の看護師に、往診の際に日頃の様子を伝え、些細な事でも相談できる関係を作っている。		
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には、こまめに医療機関と話し合い、早期に退院できるように取り組んでいる。		



番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有            重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>事業所では何度か看取りを経験しているが、早い段階では、家族、本人の意思表示のみであり、具体的には時期が来てからの取り組みであった。早い段階から具体的に話し合いが出来るように、事業所、家族、医療と取り組んでいけるような体制作りが必要である。</p>		
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援            重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>事業所では何度か看取りを経験しているが、早い段階では、家族、本人の意思表示のみであり、具体的には時期が来てからの取り組みであった。早い段階から具体的に話し合いが出来るように、事業所、家族、医療と取り組んでいけるような体制作りが必要である。</p>		<p>スタッフ間において週末期の支援のあり方についてミーティングを重ねていきたい。</p>
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止            本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>住み替えによるダメージが起こりえることについては家族に話している。            情報提供などを積極的に行い、少しでもダメージを防げるように取り組んでいる。</p>		
<p><b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>				
<p>1 その人らしい暮らしの支援            (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底            一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>ライフチャートについては、記録の便宜上玄関入り口のカウンターの上においてあるが、表紙をつけるなどし、中が見えない配慮をしている。            個別ファイルは、カギ付き戸棚にしまっている。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援            本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>したいことを話す機会を作ったり、本人との対話を大切にし、生活に活かしている</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし            職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>極力各自の希望に添える支援を行っているが、時間帯によってはスタッフ体制等の理由で不可能なこともある。その時には入居者と話し合い、本人の納得できるような対応をしている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	本人行きつけの美容院にいけるように、家族の協力を得ながら支援している。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者の食べたいものを話してもらい、体力や体調等を鑑み、体の負担にならない程度に、各々が出来る下ごしらえなどを楽しみながら行えるように配慮している。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	医師と相談のうえ、好みの嗜好品が楽しめる環境づくりをしている。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	各々の排泄リズムを把握しながら、利用者ごとの対応をし排泄の援助をしている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	スタッフの勤務体制の都合で、危機管理が難しい時間帯の入浴は行っていない。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	就寝時間や、起床時間は特に決めておらず、眠れなければ、リビングでテレビを見たり、スタッフと談話したりするようにし、気持ちよく休むことが出来るように配慮している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

59	役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように, 一人ひとりの生活歴や力を活かした役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援をしている。	出来るだけ各々の入居者が生き生きと出来る場の提供や, 出番作りを行い何かされた後には, スタッフはねぎらいの言葉をかけるようにしている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は, 本人がお金を持つことの大切さを理解しており, 一人ひとりの希望や力に応じて, お金を所持したり使えるように支援している。	可能と思える人には少額ではあるが, 金銭を管理してもらっている。 他の人はユニットで管理しているが, すきなときに使えるようにしている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに, 一人ひとりのその日の希望にそって, 戸外に出かけられるよう支援している。	極力, 各々の希望に沿うようにしている。 しかしスタッフ体制人員の状況によっては不可能なこともあり, 本人が納得できるような話し合いをするようにしている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに, 個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	少人数で外出の機会をつくり, 出来るだけ屋外にできるように取り組んでいる。希望があれば, スタッフの勤務時間を調整するなどし, 居酒屋や魚釣りに行ったり好きなことが出来るような支援をしている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり, 手紙のやり取りができるように支援をしている。	自由に家族に電話をかけたり, 手紙のやり取りをしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族, 知人, 友人等, 本人の馴染みの人たちが, いつでも気軽に訪問でき, 居心地よく過ごせるよう工夫している。	誰でも自由に面会できるようになっており, 面会時にはリビング・和室・居室等, 好きな場所を使って頂き団楽していただけるよう配慮している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

(4) 安心と安全を支える支援

65	<p>身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>どのスタッフも、身体拘束についておおむね理解できている。</p>		
66	<p>鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>	<p>居室や玄関など出入口の扉に鈴などをつけ利用者の動きを把握し、鍵をかけ閉じ込めることの無いように徹底している。</p>		
67	<p>利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>常に所在を把握し、安全を確認している。 夜間は1時間おきに巡視している。</p>		
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>状況に応じてスタッフ、家族、本人と話し合いを持ち納得される形で取り組んでいる。</p>		
69	<p>事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>事故発生時にはすぐにミニミーティングを行っている。 毎月2回のミーティングでも取り上げ話し合い、事故報告書を通し、スタッフ間での情報共有を徹底している。</p>		
70	<p>急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。</p>	<p>定期的な訓練等は行っていないが、マニュアルを理解し対応できるようにしている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	<p>災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>消防署の指導のもと、年2回の防災訓練を行っているが地域の協力はえられていない。</p>		<p>地域に働きかけていく。</p>
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。</p>	<p>起こりえるリスクに関してはその都度家族に説明を行い、お互いが納得できるような形でリスク管理を行っている。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	<p>体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>特変時には、すぐにかかりつけ医に相談し、家族にも連絡している。 申し送り等で全スタッフも情報を共有している。</p>		
74	<p>服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>個人のカルテに綴じていつでも見れるようになっている。 往診連絡ノート、申し送りノートの活用で全スタッフが確認している。</p>		
75	<p>便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。</p>	<p>スタッフは便秘のメカニズムについて勉強しており、水分摂取量や食事内容にも配慮している。 そのほかにかかりつけ医にも随時相談を行って対応している。</p>		
76	<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食後口腔ケアをおこなって、口腔内の清潔に努めている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>本人の嗜好に配慮しながらも栄養バランスが偏らないよう，別メニューを用意するなどして個別対応している。食事量、水分摂取量については、ライフチャートに記入し把握に努めている。</p>		
78	<p>感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等)</p>	<p>全入居者、スタッフの手洗いやうがい、消毒を毎日行っている。汚物の取り扱いも使い捨てのビニール手袋を使用している。冷蔵庫内の清潔維持、消費期限のチェックも行っている。</p>		
79	<p>食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>食材は、毎日その日のものを買に行っており、新鮮であるが、衛生管理については統一が取れていない。</p>		<p>食品衛生責任者講習で使うテキストを基に勉強会を行い、マニュアルを作成する。</p>
<p>2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり</p>				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関周りにはプランターに花を植え飾っている。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等)は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>季節の花を活けたり、四季折々の壁面飾りをするなどして、居心地の良い空間作りを行っている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ユニット内にテレビを見る和室もあり、自由に移動している。リビングにテーブルが3つあり気のあった入居者同士で座っている。居室でも自由に休んでいる。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室の備品は家庭から持ち込まれている。家族の写真や仏壇なども置かれている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	天気の良い日には窓を開け、換気に努めている。全居室エアコン完備で温度差も解消している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手すり、バリアフリーなど安全で自立した生活が送れる環境である。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	入居者の1日の行動を把握し、混乱失敗のないように声かけなど行い支援している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	敷地内に、種まきから収穫までを行う菜園があり入居者と一緒に畑仕事をしている。		

# 介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護  
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホームかざぐるま

評価年月日 2009年 5 月 26 日

記入年月日 2009年 5 月 26 日

この基準に基づき、別紙の実施方法  
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 リーダー 氏名 寺岡美和

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室



番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

理念の基づく運営				
1 理念の共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	創立時に作った独自の理念がある。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	スタッフにも周知できるよう、各ユニットの見やすい場所に掲示している。 その理念を基に、年間及び月間の目標を立てている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	年間をとおしての各行事や、日常の面会時の家族との会話の中で行うよう努力している。		地域への周知努力を今後も行って行きたい
2 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	町内の方々への挨拶はできているが、日常のお付き合いができるまでには至っていない。		近隣の人が気軽に立ち寄れるような環境づくりが今後の課題である。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の一員となれるよう、様々なアクションを起こしているが、地域性も起因しているのか、今一歩といったところである。 地域の行事には参加している		夏までには中断していた運営推進会議を再開させる予定である。地域の方数人でも参加して頂き、事業所の事や認知症について説明していきたいと考えている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	出来ていない		近隣の住人を対象とした「認知症講習会」等の構想がある。
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価を各ユニットの全スタッフにも取り組んでもらい、理解を深めるようにしている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	出来ていない		家族や地域の方々に、運営推進会議の意義を理解して頂きたい。 夏までには再開予定である。
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	頻繁に相談をしている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	入居時に必要と思われる方には勧めている。 現在利用されている方もいる。		職員にも知識を周知させる機会を持ちたい
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	管理者の研修会やセミナーへの参加 会議やミーティングの中で定期的に議題に挙げ 注意や喚起に努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

#### 4 理念を実践するための体制

12	<p>契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>家族の希望をしっかりと聴き、事業所として出来ること出来ない事を説明し、双方合意の上契約をしている。その後も質問や問い合わせがあれば敏速に対応している。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。</p>	<p>入居者が話しやすい環境や雰囲気創りに心がけ何かあったら事業所内で話し合い、運営に反映させている。</p>		
14	<p>家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>毎月、手紙で入居者の様子を家族に知らせている。 個々の金銭出納簿をつくり、領収書等を送付している。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>家族会で、自由に意見や思いを言える機会をつくっている。</p>		他にも同様の機会を設けたい。
16	<p>運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>月2回のミーティングで、各自に意見を述べる機会をつくっている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>緊急時にはいつでも勤務変更して対応している。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	移動は極力行っていない。 やむをえない場合には他のスタッフがフォローできるような体制づくりをしている。		
<b>5 人材の育成と支援</b>				
19	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の研修やセミナーへの参加や、資格取得のための勤務日調整も行っている		
20	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	管理者同士の交流や情報交換を行っている。 他事業所との合同勉強会なども予定している。		
21	<b>職員のストレス軽減に向けた取り組み</b> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	行事の後など、非定期的ではあるが懇親会等を開催している。		
22	<b>向上心を持って働き続けるための取り組み</b> 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	資格手当を報酬に含めている		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	<b>初期に築く本人との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	事前訪問時に世間話などで、本人がリラックスして話せるように努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居前訪問で、利用に至るまでの経過や思いを聞くよう努力している。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	事業所の機能では、要望に応えきれない状況であれば、他のサービスの紹介をしている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気次第に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	事前訪問から入居までの期間、時間があればスタッフが訪問するなどの工夫をしている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の特技を生活に活かし、スタッフもそれを教えてもらい一緒に行くことで、入居者さんが主体となれるような取り組みをしている。		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族とスタッフとの話の中で、愚痴を聞いたり一緒に喜んだりして、家族にできる事には参加してもらっている。面会に来られない家族に対しての交流が難しい。		面会にあまり来られない家族に対しての取り組みを考える必要がある。
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	家庭ではできていなかった事が、ここでは出来るようになってきている事を伝え、喜んで頂くように努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	一時帰宅など、今までの生活が途切れない取り組みを行っている。		意思表示が難しい方への取り組みが今度の課題である。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	仲の良い方同士の席を近づけたり、孤立しやすい方も職員が仲裁して、交流するよう心がけている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入院退去された方のお見舞いや、死亡退去の方への葬儀には極力出席している。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	できる限り一人ひとりの意向を聞き、希望に添うように支援している。困難な場合は話し合いによって本人が納得できるよう努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時の基本情報や、入所後のアセスメントまたは普段の利用者との会話などから情報を得てスタッフ間で共有している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	管理日誌・申し送りノート・ライフチャートなどの書類に出来るだけ詳しく記入し、全スタッフが把握できるよう努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

## 2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ケアプラン作成時には全スタッフがかかわり、カンファレンスなどを通じて意見を募っている。		本人だけではなく、家族の意向の充分に聞き取り介護計画に反映させて行きたいと考えている。
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	状態の変化によっては期間にとらわれることなく、ケアプランを作成しなおすようにしている。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	行ったサービスについての記録は些細な事でも記録しているが、利用者本人の様子（表情・言動・気づき等）の記録方法がスタッフによってまちまちである。		改めて記録の意味についてスタッフ感で話し合い共通の認識を持っていきたい。

## 3 多機能性を活かした柔軟な支援

39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	施設から自宅に退去され、事業所内のデイサービスを利用されている方も現在おられます。		
----	---	---	--	--

## 4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	チャレンジウイークの受け入れや消防訓練等、各機関の特徴をいたしたかわりをしている。		
----	--	---	--	--

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	事業所の機能では、要望に応えきれない状況であれば、他のサービスの紹介をしている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	困難な事例などは事業所のみで抱え込まず、地域包括支援センターに相談して取り組んでいる。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	協力病院の医師との関係を密にし、こまめな情報交換をすることにより、より適切な医療が受けられるよう取り組んでいる。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症専門医を主治医に持っている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	かかりつけ病院の看護師に、往診の際に日頃の様子を伝え、些細な事でも相談できる関係を作っている。		
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には、こまめに医療機関と話し合い、早期に退院できるように取り組んでいる。		



番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有            重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>事業所では何度か看取りを経験しているが、早い段階では、家族、本人の意思表示のみであり、具体的には時期が来てからの取り組みであった。早い段階から具体的に話し合いが出来るように、事業所、家族、医療と取り組んでいけるような体制作りが必要である。</p>		
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援            重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>事業所では何度か看取りを経験しているが、早い段階では、家族、本人の意思表示のみであり、具体的には時期が来てからの取り組みであった。早い段階から具体的に話し合いが出来るように、事業所、家族、医療と取り組んでいけるような体制作りが必要である。</p>		<p>スタッフ間において週末期の支援のあり方についてミーティングを重ねていきたい。</p>
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止            本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>住み替えによるダメージが起こりえることについては家族に話している。            情報提供などを積極的に行い、少しでもダメージを防げるように取り組んでいる。</p>		
<p><b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>				
<p>1 その人らしい暮らしの支援            (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底            一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>ライフチャートについては、記録の便宜上玄関入り口のカウンターの上においてあるが、表紙をつけるなどし、中が見えない配慮をしている。            個別ファイルは、カギ付き戸棚にしまっている。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援            本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>したいことを話す機会を作ったり、本人との対話を大切にし、生活に活かしている</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし            職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>極力各自の希望に添える支援を行っているが、時間帯によってはスタッフ体制等の理由で不可能なこともある。その時には入居者と話し合い、本人の納得できるような対応をしている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	本人行きつけの美容院にいけるように、家族の協力を得ながら支援している。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者の食べたいものを話してもらい、体力や体調等を鑑み、体の負担にならない程度に、各々が出来るところまで下ごしらえなどを楽しみながら行えるように配慮している。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	医師と相談のうえ、好みの嗜好品が楽しめる環境づくりをしている。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	各々の排泄リズムを把握しながら、利用者ごとの対応をし排泄の援助をしている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	スタッフの勤務体制の都合で、危機管理が難しい時間帯の入浴は行っていない。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	就寝時間や、起床時間は特に決めておらず、眠れなければ、リビングでテレビを見たり、スタッフと談話したりするようにし、気持ちよく休むことが出来るように配慮している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

59	役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように, 一人ひとりの生活歴や力を活かした役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援をしている。	出来るだけ各々の入居者が生き生きと出来る場の提供や, 出番作りを行い何かされた後には, スタッフはねぎらいの言葉をかけるようにしている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は, 本人がお金を持つことの大切さを理解しており, 一人ひとりの希望や力に応じて, お金を所持したり使えるように支援している。	可能と思える人には少額ではあるが, 金銭を管理してもらっている。 他の人はユニットで管理しているが, すきなときに使えるようにしている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに, 一人ひとりのその日の希望にそって, 戸外に出かけられるよう支援している。	極力, 各々の希望に沿うようにしている。 しかしスタッフ体制人員の状況によっては不可能なこともあり, 本人が納得できるような話し合いをするようにしている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに, 個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	少人数で外出の機会をつくり, 出来るだけ屋外にできるように取り組んでいる。希望があれば, スタッフの勤務時間を調整するなどし, 居酒屋や魚釣りに行ったり好きなことが出来るような支援をしている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり, 手紙のやり取りができるように支援をしている。	自由に家族に電話をかけたり, 手紙のやり取りをしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族, 知人, 友人等, 本人の馴染みの人たちが, いつでも気軽に訪問でき, 居心地よく過ごせるよう工夫している。	誰でも自由に面会できるようになっており, 面会時にはリビング・和室・居室等, 好きな場所を使って頂き団楽していただけるよう配慮している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

(4) 安心と安全を支える支援

65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	どのスタッフも、身体拘束についておおむね理解できている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室や玄関など出入口の扉に鈴などをつけ利用者の動きを把握し、鍵をかけ閉じ込めることの無いように徹底している。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	常に所在を把握し、安全を確認している。 夜間は1時間おきに巡視している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	状況に応じてスタッフ、家族、本人と話し合いを持ち納得される形で取り組んでいる。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故発生時にはすぐにミニミーティングを行っている。 毎月2回のミーティングでも取り上げ話し合い、事故報告書を通し、スタッフ間での情報共有を徹底している。		
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	定期的な訓練等は行っていないが、マニュアルを理解し対応できるようにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	<p>災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>消防署の指導のもと、年2回の防災訓練を行っているが地域の協力はえられていない。</p>		<p>地域に働きかけていく。</p>
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。</p>	<p>起こりえるリスクに関してはその都度家族に説明を行い、お互いが納得できるような形でリスク管理を行っている。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	<p>体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>特変時には、すぐにかかりつけ医に相談し、家族にも連絡している。 申し送り等で全スタッフも情報を共有している。</p>		
74	<p>服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>個人のカルテに綴じていつでも見れるようになっている。 往診連絡ノート、申し送りノートの活用で全スタッフが確認している。</p>		
75	<p>便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。</p>	<p>スタッフは便秘のメカニズムについて勉強しており、水分摂取量や食事内容にも配慮している。 そのほかにかかりつけ医にも随時相談を行って対応している。</p>		
76	<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食後口腔ケアをおこなって、口腔内の清潔に努めている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>本人の嗜好に配慮しながらも栄養バランスが偏らないよう、別メニューを用意するなどして個別対応している。食事量、水分摂取量については、ライフチャートに記入し把握に努めている。</p>		
78	<p>感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等)</p>	<p>全入居者、スタッフの手洗いやうがい、消毒を毎日行っている。汚物の取り扱いも使い捨てのビニール手袋を使用している。冷蔵庫内の清潔維持、消費期限のチェックも行っている。</p>		
79	<p>食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>食材は、毎日その日のものを買に行っており、新鮮であるが、衛生管理については統一が取れていない。</p>		<p>食品衛生責任者講習で使うテキストを基に勉強会を行い、マニュアルを作成する。</p>
<p>2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり</p>				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関周りにはプランターに花を植え飾っている。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等)は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>季節の花を活けたり、四季折々の壁面飾りをするなどして、居心地の良い空間作りを行っている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ユニット内にテレビを見る和室もあり、自由に移動している。リビングにテーブルが3つあり気のあった入居者同士で座っている。居室でも自由に休んでいる。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室の備品は家庭から持ち込まれている。家族の写真や仏壇なども置かれている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	天気の良い日には窓を開け、換気に努めている。全居室エアコン完備で温度差も解消している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手すり、バリアフリーなど安全で自立した生活が送れる環境である。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	入居者の1日の行動を把握し、混乱失敗のないように声かけなど行い支援している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	敷地内に、種まきから収穫までを行う菜園があり入居者と一緒に畑仕事をしている。		

# 介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護  
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホームかざぐるま

評価年月日 2009年 5 月 26 日

記入年月日 2009年 5 月 26 日

この基準に基づき、別紙の実施方法  
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 リーダー 氏名 金尾 康子

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室



番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">理念の基づく運営</div>				
1 理念の共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	創立時に作った独自の理念がある。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	スタッフにも周知できるよう、各ユニットの見やすい場所に掲示している。 その理念を基に、年間及び月間の目標を立てている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	年間をとおしての各行事や、日常の面会時の家族との会話の中で行うよう努力している。		地域への周知努力を今後も行って行きたい
2 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	町内の方々への挨拶はできているが、日常のお付き合いができるまでには至っていない。		近隣の人が気軽に立ち寄れるような環境づくりが今後の課題である。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の一員となれるよう、様々なアクションを起こしているが、地域性も起因しているのか、今一歩といったところである。 地域の行事には参加している		夏までには中断していた運営推進会議を再開させる予定である。地域の方数人でも参加して頂き、事業所の事や認知症について説明していきたいと考えている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	出来ていない		近隣の住人を対象とした「認知症講習会」等の構想がある。
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価を各ユニットの全スタッフにも取り組んでもらい、理解を深めるようにしている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	出来ていない		家族や地域の方々に、運営推進会議の意義を理解して頂きたい。 夏までには再開予定である。
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	頻繁に相談をしている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	入居時に必要と思われる方には勧めている。 現在利用されている方もいる。		職員にも知識を周知させる機会を持ちたい
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	管理者の研修会やセミナーへの参加 会議やミーティングの中で定期的に議題に挙げ 注意や喚起に努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

4 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>家族の希望をしっかりと聴き、事業所として出来ること出来ない事を説明し、双方合意の上契約をしている。その後も質問や問い合わせがあれば敏速に対応している。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。</p>	<p>入居者が話しやすい環境や雰囲気創りに心がけ何かあったら事業所内で話し合い、運営に反映させている。</p>		
14	<p>家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>毎月、手紙で入居者の様子を家族に知らせている。 個々の金銭出納簿をつくり、領収書等を送付している。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>家族会で、自由に意見や思いを言える機会をつくっている。</p>		他にも同様の機会を設けたい。
16	<p>運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>月2回のミーティングで、各自に意見を述べる機会をつくっている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>緊急時にはいつでも勤務変更して対応している。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	移動は極力行っていない。 やむをえない場合には他のスタッフがフォローできるような体制づくりをしている。		
<b>5 人材の育成と支援</b>				
19	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の研修やセミナーへの参加や、資格取得のための勤務日調整も行っている		
20	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	管理者同士の交流や情報交換を行っている。 他事業所との合同勉強会なども予定している。		
21	<b>職員のストレス軽減に向けた取り組み</b> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	行事の後など、非定期的ではあるが懇親会等を開催している。		
22	<b>向上心を持って働き続けるための取り組み</b> 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	資格手当を報酬に含めている		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	<b>初期に築く本人との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	事前訪問時に世間話などで、本人がリラックスして話せるように努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居前訪問で、利用に至るまでの経過や思いを聞くよう努力している。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	事業所の機能では、要望に応えきれない状況であれば、他のサービスの紹介をしている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気次第に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	事前訪問から入居までの期間、時間があればスタッフが訪問するなどの工夫をしている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の特技を生活に活かし、スタッフもそれを教えてもらい一緒に行くことで、入居者さんが主体となれるような取り組みをしている。		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族とスタッフとの話の中で、愚痴を聞いたり一緒に喜んだりして、家族にできる事には参加してもらっている。面会に来られない家族に対しての交流が難しい。		面会にあまり来られない家族に対しての取り組みを考える必要がある。
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	家庭ではできていなかった事が、ここでは出来るようになってきている事を伝え、喜んで頂くように努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	一時帰宅など、今までの生活が途切れない取り組みを行っている。		意思表示が難しい方への取り組みが今度の課題である。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	仲の良い方同士の席を近づけたり、孤立しやすい方も職員が仲裁して、交流するよう心がけている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入院退去された方のお見舞いや、死亡退去の方への葬儀には極力出席している。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	できる限り一人ひとりの意向を聞き、希望に添うように支援している。困難な場合は話し合いによって本人が納得できるよう努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時の基本情報や、入所後のアセスメントまたは普段の利用者との会話などから情報を得てスタッフ間で共有している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	管理日誌・申し送りノート・ライフチャートなどの書類に出来るだけ詳しく記入し、全スタッフが把握できるよう努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

## 2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ケアプラン作成時には全スタッフがかかわり、カンファレンスなどを通じて意見を募っている。		本人だけではなく、家族の意向の充分に聞き取り介護計画に反映させて行きたいと考えている。
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	状態の変化によっては期間にとらわれることなく、ケアプランを作成しなおすようにしている。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	行ったサービスについての記録は些細な事でも記録しているが、利用者本人の様子（表情・言動・気づき等）の記録方法がスタッフによってまちまちである。		改めて記録の意味についてスタッフ感で話し合い共通の認識を持っていきたい。

## 3 多機能性を活かした柔軟な支援

39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	施設から自宅に退去され、事業所内のデイサービスを利用されている方も現在おられます。		
----	---	---	--	--

## 4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	チャレンジウイークの受け入れや消防訓練等、各機関の特徴をいたしたかわりをしている。		
----	--	---	--	--

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	事業所の機能では、要望に応えきれない状況であれば、他のサービスの紹介をしている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	困難な事例などは事業所のみで抱え込まず、地域包括支援センターに相談して取り組んでいる。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	協力病院の医師との関係を密にし、こまめな情報交換をすることにより、より適切な医療が受けられるよう取り組んでいる。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症専門医を主治医に持っている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	かかりつけ病院の看護師に、往診の際に日頃の様子を伝え、些細な事でも相談できる関係を作っている。		
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には、こまめに医療機関と話し合い、早期に退院できるように取り組んでいる。		



番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有            重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>事業所では何度か看取りを経験しているが、早い段階では、家族、本人の意思表示のみであり、具体的には時期が来てからの取り組みであった。早い段階から具体的に話し合いが出来るように、事業所、家族、医療と取り組んでいけるような体制作りが必要である。</p>		
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援            重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>事業所では何度か看取りを経験しているが、早い段階では、家族、本人の意思表示のみであり、具体的には時期が来てからの取り組みであった。早い段階から具体的に話し合いが出来るように、事業所、家族、医療と取り組んでいけるような体制作りが必要である。</p>		<p>スタッフ間において週末期の支援のあり方についてミーティングを重ねていきたい。</p>
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止            本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>住み替えによるダメージが起こりえることについては家族に話している。            情報提供などを積極的に行い、少しでもダメージを防げるように取り組んでいる。</p>		
<p><b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>				
<p>1 その人らしい暮らしの支援            (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底            一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>ライフチャートについては、記録の便宜上玄関入り口のカウンターの上においてあるが、表紙をつけるなどし、中が見えない配慮をしている。            個別ファイルは、カギ付き戸棚にしまっている。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援            本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>したいことを話す機会を作ったり、本人との対話を大切にし、生活に活かしている</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし            職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>極力各自の希望に添える支援を行っているが、時間帯によってはスタッフ体制等の理由で不可能なこともある。その時には入居者と話し合い、本人の納得できるような対応をしている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	本人行きつけの美容院にいけるように、家族の協力を得ながら支援している。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者の食べたいものを話してもらい、体力や体調等を鑑み、体の負担にならない程度に、各々が出来るところまで下ごしらえなどを楽しみながら行えるように配慮している。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	医師と相談のうえ、好みの嗜好品が楽しめる環境づくりをしている。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	各々の排泄リズムを把握しながら、利用者ごとの対応をし排泄の援助をしている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	スタッフの勤務体制の都合で、危機管理が難しい時間帯の入浴は行っていない。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	就寝時間や、起床時間は特に決めておらず、眠れなければ、リビングでテレビを見たり、スタッフと談話したりするようにし、気持ちよく休むことが出来るように配慮している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

59	役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように, 一人ひとりの生活歴や力を活かした役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援をしている。	出来るだけ各々の入居者が生き生きと出来る場の提供や, 出番作りを行い何かされた後には, スタッフはねぎらいの言葉をかけるようにしている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は, 本人がお金を持つことの大切さを理解しており, 一人ひとりの希望や力に応じて, お金を所持したり使えるように支援している。	可能と思える人には少額ではあるが, 金銭を管理してもらっている。 他の人はユニットで管理しているが, すきなときに使えるようにしている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに, 一人ひとりのその日の希望にそって, 戸外に出かけられるよう支援している。	極力, 各々の希望に沿うようにしている。 しかしスタッフ体制人員の状況によっては不可能なこともあり, 本人が納得できるような話し合いをするようにしている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに, 個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	少人数で外出の機会をつくり, 出来るだけ屋外にできるように取り組んでいる。希望があれば, スタッフの勤務時間を調整するなどし, 居酒屋や魚釣りに行ったり好きなことが出来るような支援をしている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり, 手紙のやり取りができるように支援をしている。	自由に家族に電話をかけたり, 手紙のやり取りをしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族, 知人, 友人等, 本人の馴染みの人たちが, いつでも気軽に訪問でき, 居心地よく過ごせるよう工夫している。	誰でも自由に面会できるようになっており, 面会時にはリビング・和室・居室等, 好きな場所を使って頂き団楽していただけるよう配慮している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

(4) 安心と安全を支える支援

65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	どのスタッフも、身体拘束についておおむね理解できている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室や玄関など出入口の扉に鈴などをつけ利用者の動きを把握し、鍵をかけ閉じ込めることの無いように徹底している。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	常に所在を把握し、安全を確認している。 夜間は1時間おきに巡視している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	状況に応じてスタッフ、家族、本人と話し合いを持ち納得される形で取り組んでいる。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故発生時にはすぐにミニミーティングを行っている。 毎月2回のミーティングでも取り上げ話し合い、事故報告書を通し、スタッフ間での情報共有を徹底している。		
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	定期的な訓練等は行っていないが、マニュアルを理解し対応できるようにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署の指導のもと、年2回の防災訓練を行っているが地域の協力はえられていない。		地域に働きかけていく。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	起こりえるリスクに関してはその都度家族に説明を行い、お互いが納得できるような形でリスク管理を行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	特変時には、すぐにかかりつけ医に相談し、家族にも連絡している。 申し送り等で全スタッフも情報を共有している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個人のカルテに綴じていつでも見れるようになっている。 往診連絡ノート、申し送りノートの活用で全スタッフが確認している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	スタッフは便秘のメカニズムについて勉強しており、水分摂取量や食事内容にも配慮している。 そのほかにかかりつけ医にも随時相談を行って対応している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後口腔ケアをおこなって、口腔内の清潔に努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>本人の嗜好に配慮しながらも栄養バランスが偏らないよう、別メニューを用意するなどして個別対応している。食事量、水分摂取量については、ライフチャートに記入し把握に努めている。</p>		
78	<p>感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等)</p>	<p>全入居者、スタッフの手洗いやうがい、消毒を毎日行っている。汚物の取り扱いも使い捨てのビニール手袋を使用している。冷蔵庫内の清潔維持、消費期限のチェックも行っている。</p>		
79	<p>食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>食材は、毎日その日のものを買に行っており、新鮮であるが、衛生管理については統一が取れていない。</p>		<p>食品衛生責任者講習で使うテキストを基に勉強会を行い、マニュアルを作成する。</p>
<p>2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり</p>				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関周りにはプランターに花を植え飾っている。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等)は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>季節の花を活けたり、四季折々の壁面飾りをするなどして、居心地の良い空間作りを行っている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ユニット内にテレビを見る和室もあり、自由に移動している。リビングにテーブルが3つあり気のあった入居者同士で座っている。居室でも自由に休んでいる。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室の備品は家庭から持ち込まれている。家族の写真や仏壇なども置かれている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	天気の良い日には窓を開け、換気に努めている。全居室エアコン完備で温度差も解消している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手すり、バリアフリーなど安全で自立した生活が送れる環境である。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	入居者の1日の行動を把握し、混乱失敗のないように声かけなど行い支援している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	敷地内に、種まきから収穫までを行う菜園があり入居者と一緒に畑仕事をしている。		